



2025 年 7 月 1 日

アルー株式会社

(コード番号：7043 東証グロース)

～お悩み解決！若手の離職防止を考える～

第3回「常識」や「当たり前」という考え方は要注意

■無意識に「悪」と決めつけていないか？

若手職員が理解できない言動を取る背景には自分との認識の違いがあり、それに気づくことが大切ですが、人間は固定観念を通して物事を見ているため、相手の行為を「違い」ではなく「悪」と決めつけてしまうことがあります。

例えば、オフィスのコピー機用の紙が切れていたのに、たまたま手が空いている新入職員に補充を依頼したところ、「それは私の仕事じゃない」と言い返されました。さて、皆さんなら、この新入職員のことをどう思いますか？

前提として、用紙の補充は誰の役割か明確に決まっています。海外のように予め役割が明確に決まっていると、「それは私の仕事ではない」といった反応はごく普通のことですが、おそらく日本で働く多くの方は「この新入職員はやる気がない！」「仕事をなめている！」といった否定的な見方を即座にするとします。

その根底には、職場ではみんなで助け合うべきという暗黙の常識があり、それに反する行為は無条件で「悪」に見えてしまうわけですが、この暗黙の常識こそ固定観念に他なりません。

■固定観念から脱却するには

固定観念そのものは、私自身も含めて誰もが持っているものですが、問題は無意識のうちに固定観念に囚われて、思考停止になってしまうことです。

そこで、自分がつい常識や当たり前だと思い込んでいることを整理した上で、自分とは「逆の常識」を考えてみるとよいかもしれません。

例えば、ミスをしてはいけないという認識は、多くの人が持つ常識ですが、一方で「人間なので別にミスしてもいいじゃないか」という逆の常識も存在します。

どちらが正しいというものではないのですが、重要なことは「自分の常識は万人に共通する常識ではない」と気づくことです。対極にあるものを認識することで無意識のうちに自分を動かしている固定観念に気づき、囚われないようにすることができます。

次回は、若手とのコミュニケーションの取り方をご紹介します。

アルー株式会社 人材育成コンサルタント 孔令愚



※本内容は、「SHINKIN 情報玉手箱」(発行：東京都信用金庫協会 編集：近代セールス社)の令和6年6月号に掲載されたものです。本内容の一部または全部を許諾なく無断で複写・複製、磁気媒体・光ディスクへ入力等を行うことを禁じます。

■アルー株式会社について

アルー株式会社は、「夢が溢れる世界のために、人のあらゆる可能性を切り拓きます — all the possibilities —」という Missionのもと、『育成の成果にこだわる』ことをテーマに、人材育成支援事業を行っています。新入社員から経営者層までの幅広いレイヤーに対する階層別研修の実施をはじめ、グローバル人材や DX 人材の育成などのテーマ別教育プログラムの提供、さらにはラーニングマネジメントシステム「etudes」を用いた e ラーニングの提供などを通して、組織や個人の成長を人材育成の側面から支援しています。顧客ごとに個別最適化されたソリューションの提案および実施によって顧客企業の多様な課題を解決することを目指し、グループ全体で事業に取り組んでいます。

<https://www.alue.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

- ・アルー株式会社 コーポレート部
- ・ホームページお問い合わせフォーム

Tel 03-6268-9791

<https://mkt.alue.co.jp/l/882713/2021-03-18/xjpp>